

高校時代に培われた原点



まつい まさたけ
桜井市長(奈良県) 松井正剛

桜井市のこと

桜井市には、わが国最古の神社である「大神神社」や、牡丹の寺としても有名な「花の御寺 長谷寺」、三輪山が美しく一望でき、天平彫刻の傑作「国宝・十一面観音立像」の「聖林寺」、秋の紅葉と「けまり祭」などで有名な「多武峰談山神社」、日本三文殊の一つで知恵の神様として親しまれている「安倍文殊院」、日本最古の道といわれる「山の辺の道」など、歴史を感じさせる名所・旧跡が数多くあります。

さらに、現在、最も注目されているのは市内北部の「纏向遺跡」です。この遺跡は3



日本の麺食文化のルーツ「三輪素麺」

世紀の国内最大級の集落であり、邪馬台国の最有力候補地とされ、ヤマト王権発祥の地としてわが国の生い立ちに関わる重要な遺跡であると考えられています。

また、本市は自然・歴史・文化資源の豊かな風土を生かし、市民の経済基盤となる地場産業を育て発展させてきました。木材、素麺などについては、特色ある地場産業として本市の経済基盤の一翼を担っています。このうち、木材については良質材の産地として、また、吉野材の大規模集散地として「木材のまち桜井」を全国に知らしめています。

そして、本市の特産品として全国に知られているのが「三輪素麺」です。素麺については、今日、全国各地で生産されていますが、その発祥地は本市の三輪であり、長い歴史が伝統の味を生み出し、独特の技法が受け継がれています。

伝統の三輪素麺を味わっていただき、日本最古の道「山の辺の道」を歩いていただければ、古代から受け継がれてきた日本の歴史文化の源流に出会えます。ぜひ、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたらお越しください。

高校時代のエピソード①

私は一度、高校受験に失敗し、浪人生活を送り、1年遅れて高校に入学しました。54年前のことではありますが、晴れて高校



筆者写真

に入学できた時の喜びは今でも鮮明に覚えています。

高校受験での経験は、その時は大きな挫折であると思いましたが、今、振り返ってみると、自分を見つめ直す大きな起点になったと思っています。

別の高校へ入学する選択もできましたが、志望する高校に胸を張って入学したいという思いと、もう一度努力して、自分の力を磨きたいという気持ちで、あえて浪人生活を選びました。

今でこそかっこよく浪人生活と言っておりますが、その時は、まだ中学校を卒業したての中学浪人ですので、それまで経験したことのない、本当につらい1年でした。

そして、1年遅れで高校に入学しましたが、その時の『やらなければならぬ時』は何が何でも頑張る』という、この経験が、以後の私の人生に大きく影響を与えた出来事であったと思っています。

高校時代のエピソード②

もう一つは、素晴らしい仲間と共に、野球ができたことです。1浪しているため、年齢制限もあり、試合に出場できるのは2年生まででした。それだけに、2年生の夏の大会前に背番号9番、打順は8番、いわゆるライパチですが、素晴らしい仲間を支えられ、レギュラーになれた感激は、今も脳裏に焼き付いています。

しかも、夏の奈良県大会では、高校創立以来、初の決勝進出を果たしましたが、惜しくも敗れ、準優勝でした。

入学して以来、高校入試に一度失敗した事についてコンプレックスを持っていましたが、その時の経験は、素晴らしい仲間と、勉強とクラブ活動の両立を図れたことを誇りに思うと共に、この事を今後の人生の指針としたいと決意を新たにしたり、本当に貴重な経験でした。

私の高校生活は大変充実したものでした。いろいろな経験もし、また、いろいろな挫折や苦しみもありましたが、大学に進み、歯科医となり、そして政治家として、今は桜井市長を務めさせていただいております。ここに至る原点というものが、高校時代に培われたと思っています。

二つの座右の銘

親の威光を受けることを「親の七光」と申

しますが、私の場合は、歯科医で、県議会議員であった祖父と父の2人の光を受け「十四光」でした。同じ光を受けるのであれば、甘んじて受け、その代わりに人間として、政治家として2人を超える人間になれるように、二つの言葉を座右の銘として努力を続けてきました。

一つは、「信なくば立たず」です。この言葉は、論語の一説で、「信」つまり信頼は、政治にも人間関係にも重要であるという教訓です。信頼される政治家である事が大切であり、社会は政治への信頼なしには成り立たないともいえます。政治家としての責任を改めて自覚し、「信」に立つ、誠実に真摯な政治行政を確立すべく、日々努めています。

もう一つは、「公平無私」という言葉です。政治を行うに当たり最も大切なことは、自分の利益や主観、感情を判断基準から外し、物事を公平に進めることです。大切な決断をする時、本市にとって何が一番ふさわしいかを考え、偏ることなく、公平に判断することが必要で、私的な感情を交えないことです。

これまで30歳で奈良県議会議員となり現在に至りますが、私の政治への意欲と信念は全く揺らいでいません。平成23年12月に桜井市長となつてからも、この二つの言葉を座右の銘とし「日本一住みたいまち 桜井」の実現に向け、荒れた畑を耕し（行財政改

革を行い）、その畑に種をまき（県とのまちづくり連携協定締結や、国の地方創生施策に取り組み）、その種を大切に育ててまいりました。そして、そのまちづくりの花が今、つぼみの状態まで育ってきたという状況にあります。

今後とも市民の皆さんと力を合わせ、大切に育ててきたまちづくりの花のつぼみを、より大きな花を咲かすことができるよう、私自身全力で取り組んでいく決意です。



令和4年秋にグランドオープンする桜井市新庁舎（イメージ）